人文地理学研究　XVII　49～68　1993

ルイジアナ州における墓地の分布特性
―文化集団単位としての墓地―

中　川　　正

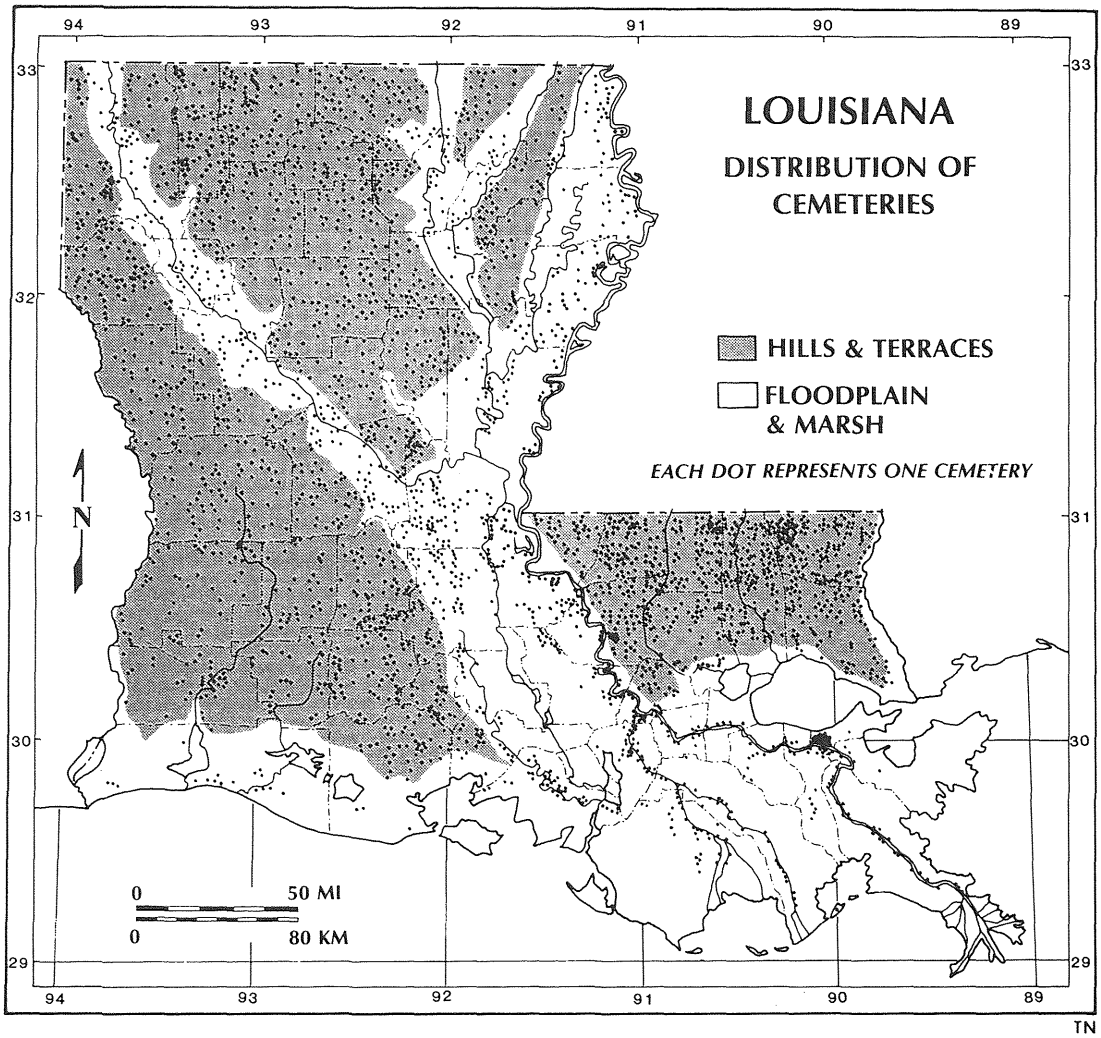
Ⅰ　序論
Ⅱ　ルイジアナ州における諸集団
　Ⅱ－1　北ルイジアナと南ルイジアナ
　Ⅱ－2　カトリックとプロテスタント
　Ⅱ－3　白人と黒人
　Ⅱ－4　都市と農村
Ⅲ　サンプル墓地における集団の特性
　Ⅲ－1　サンプル墓地の抽出と分類
　Ⅲ－2　宗教的構成
　Ⅲ－3　人種構成
　Ⅲ－4　規模
　Ⅲ－5　所有形態
　Ⅲ－6　墓地清掃日
Ⅳ　結論

Ⅰ　序　　論

第1図は，合衆国国土地理院（United States Geological Survey）発行の大縮尺地形図から，ルイジアナ州において確認可能な3,180の墓地をすべて抽出した分布図である．この分布図には，墓地が散在する丘陵地・台地と，自然堤防などの微高地に墓地が凝集する氾濫原・湿地の明瞭な差異が表れており，ここから墓地の分布を制約する自然的条件が読み取れる．また，フランス系でカトリックである住民が卓越する南ルイジアナよりも，アングロサクソン系のプロテスタントが大多数を占める北ルイジアナにおける墓地密度の方がはるかに高いことも明かである．

しかし，この墓地の分布は，単に自然環境との対応や密度の地域差以上のものを反映しているように思われる．土葬が100％に近いルイジアナ州においては，人々の人生の終着点はほぼ例外なく墓地である．人々は墓地を形成するときに，ふさわしいと思う集団を自発的に形成したり，すでに形成された集団に自らの意思で所属したりする．この集団（以後墓地集団と称する）は，家族であったり，集落であったり，教会であったり，あるいは公共機関や営利団体であったりするが，いずれにせよ，文化的価値の似通った人々が自らのアイデンティティを強く表現する対象である．ルイジアナ州の墓地は，ルイジアナ州の人々を様々な種類と規模の墓地集団としてまとめる単位としてみなすことができる．すなわち，すでに機能を失った墓地を除けば，ルイジアナ州の墓地の分布は，この州の墓地集団の結節点をほぼ網羅的に表している．ルイジアナ墓地は州の文化的アイデンティティの基礎単位を示したものであり，したがってこの墓地集団の分析を通じて，文化景観形成の主体である文化集団の特性を有効に解明できるものと考えられる．

墓地が人間世界の縮図であると唱えられて久しく[1]，多くの研究者によって，墓地の空間的[2]，時間的[3]，民族的[4]，宗教的[5]，経済的[6]差異に，生ける人間社会の差異が反映していることが確認され



第1図　ルイジアナ州における墓地の分布

てきた．それらの研究は，地域の何の要素を墓地が縮図的に表現するかを分析したものであるが，人々を墓地集団という文化集団に縮図的にまとめる核として墓地を捉えたものではない．

筆者も，ルイジアナ州において系統的に抽出された236墓地の実地調査をもとに，墓上構造物と装飾品[7]，墓地植生[8]，墓標景観[9]が人々の地域的，宗教的，人種的，都市・農村的集団へのアイデンティティパターンを表していることを発見し，それらをもとに墓地類型を設定した[10]．それらの研究は，南北ルイジアナ，カトリックとプロテスタント，白人と黒人，都市と農村という4種類の文化集団の価値パターンの発見を試みたものであったが，操作的に定義されたこれらの集団の枠組みに固執したために，墓地集団の作り方やそのその属性そのものに関する検討は十分ではなかった．

本稿は，以上のような認識のもとに，ルイジアナ州における文化集団のモザイク構造を，墓地集団の分析を通して解明する．墓地集団は，地域，宗教，人種，都市・農村など，どの集団へのアイデン

ティティを最も強く反映して形成されているのだろうか．その集団ごとに，規模や宗教的・人種的排他性，アイデンティティの核となる組織や行事などに，どのような特徴がみられるのだろうか．そして，そのような様々な規模や属性の集団が，地域によってどのように分布の差異を示し，ルイジアナ州の文化の地域性を形成しているのだろうか．本稿は，これらの疑問に答えようとするものである．

方法として，まず，ルイジアナ州においてアイデンティティの核となるとみなされる南北ルイジアナ，カトリックとプロテスタント，白人と黒人，都市と農村の4対の操作的に設定された集団の全体的規模と特性を概観する．つぎに，墓地集団の分析を実地調査に基づいて行うために，それぞれの操作的集団から十分な標本数を抽出できるようなサンプリングを行う．そして，実地調査によって収集されたデータをもとに，どの属性が優先されてどのような墓地集団が形成されているかを明らかにし，実態に即した集団の分類を行う．さらに，それぞれの集団ごとに，宗教的・人種的均質性，所有形態，規模，墓地清掃日などの属性を検討する．最後に，これらのサンプル墓地の分析結果を，再びルイジアナ州全体の墓地分布に捉えなおし，ルイジアナ州全体における文化集団のモザイク構造の解明に迫る．

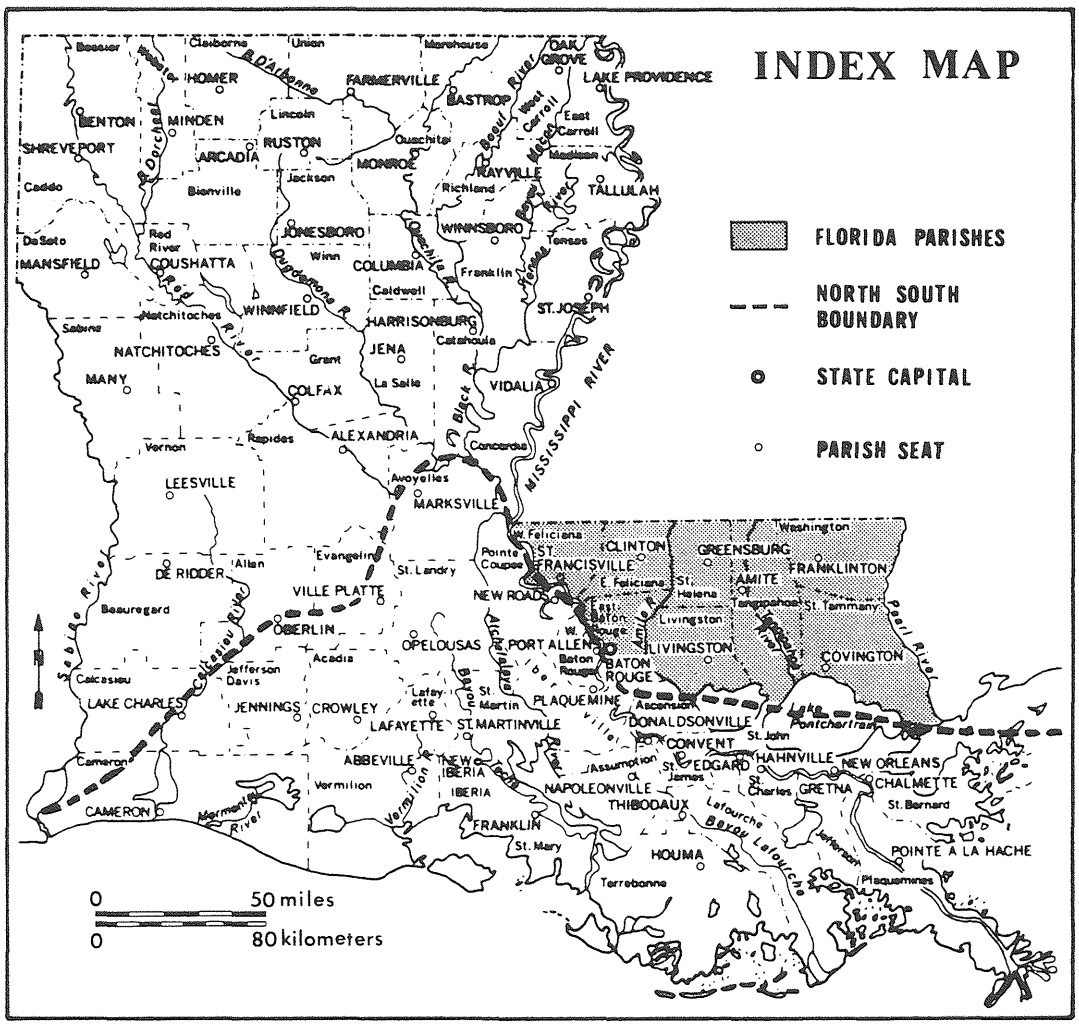
Ⅱ　ルイジアナ州における諸集団

Ⅱ－1　北ルイジアナと南ルイジアナ

ルイジアナ州を最も特徴づける文化地理的側面として，アングロサクソン系が卓越する北ルイジアナとフランス系が大多数を占める南ルイジアナの文化的差異が注目されてきた．本稿では，従来の諸研究[11]と筆者の観察をもとに，第2図のように南北ルイジアナの境界線を設定した．フロリダ諸郡と称される州東部の諸郡の南部のモウレパ湖岸やポンチャートレン湖岸には，幾分南ルイジアナ的景観がみられ，また州西部における境界線もそれほど明瞭ではないが，この境界線が現実の墓地景観に表れた南北ルイジアナのアイデンティティパターンとほぼ一致することはすでに確認されている[12]．センサスを用いるときには，アレン郡を北ルイジアナに，アヴォイェレス郡，エヴァンジェリン郡，ジェファーソン・デービス郡，カルカシュー郡，カメロン郡を南ルイジアナとして扱う．この定義によると，1980年におけるルイジアナ州の4,205,900の人口のうち，北ルイジアナは47％，南ルイジアナは53％を占め，南北の人口には大差がない．

北ルイジアナに住む大多数の人々は，スコットランド系アイルランド人やドイツ人の血が混じった南部台地人（Upland South）と呼ばれるアイルランド系の民族である[13]．現在の南部台地人の祖先は，1725年から1775年にかけて，ペンシルベニア州ランカスターからジョージア州オーガスタにいたるアパラチアやピードモント地域において独自の文化を形成した後，1775年から1825年にかけて，北ルイジアナを含む合衆国南部の台地全域に移住したといわれている．その結果，南部台地の地域には，比較的均質性の高い文化や景観が形成されている．南部台地人の多くは，バプテストやメソジストや長老派を中心とする保守的なプロテスタントである．

これに対して，南ルイジアナに住む人々のかなりの部分はフランス系である．彼らの祖先はカナダのアカディア島（ノバスコシア）から追放され，1765年から1785年にかけて南ルイジアナに移住して



第2図　ルイジアナ州概略図

きた小農民であった．彼らはケイジャン（Cajun）と呼ばれ，現在でも50代以上の人々の大多数は，家庭内でフランス語を常用している．ケイジャンたちの宗教は，伝統的にカトリックである[14]．

しかし，この南北ルイジアナの集団区分は，あくまで地域に基づくものであり，必ずしも民族的な区分ではない．北ルイジアナにも，フランス系の民族島は存在し，また南ルイジアナにも少なからずアングロサクソン系の住民は存在する．また，後述するように，ルイジアナの人口の29％を占める黒人は南北ルイジアナにまたがって存在する．さらに，南部低地部から移住してきたアングロサクソン系のプランターたちは，ミシシッピ，レッド・リバー，バイユー・ラフーシュなどの河川流域のプランテーション地域に分布する．19世紀末の中西部からの移民の子孫たちは，南西部のプレーリー地域に主に分布しているが，このフランス系民族が卓越する地域で民族的独自性を失ってきている[15]．それ以外にも，イタリア系，チェコ系，ハンガリー系などの民族島も存在する．しかし，アングロサ

クソン系の北ルイジアナとフランス系の南ルイジアナという民族的対応関係は，ルイジアナ文化を特徴づける最も重要な特徴であろう．

Ⅱ－2　カトリックとプロテスタント

ルイジアナ州における集団の大多数は，カトリックかプロテスタントに分類することができる．全人口に占めるカトリックの割合は，4割程度ではないかと推定される[16]．たしかにこの両者以外にも宗教集団は存在するが，その割合は非常に低く，たとえば1984年におけるユダヤ人の人口は，ルイジアナ全体の0.4％にすぎない[17]．

1971年においてカトリックが卓越する郡は，ほぼ南ルイジアナにあり，一部それに隣接する郡に及んでいる（第3図）．このパターンは，南ルイジアナのフランス系住民の大多数がカトリックであることによる．しかし，南ルイジアナの黒人の中には，カトリックよりもプロテスタントが多い．プロテスタントが卓越する北ルイジアナの南部台地人たちは，主に南部バプテスト，メソジスト，長老派を中心とする福音派的教派である．ミシシッピ川氾濫原に住むプランターたちは，主に聖公会の会員である．

Ⅱ－3　白人と黒人

1980年において黒人人口は，ルイジアナ州全体の29％を占め，その大部分は都市地域やかつてのプランテーション地域に居住している（第4図）．黒人人口が過半数を占める郡も6存在する．

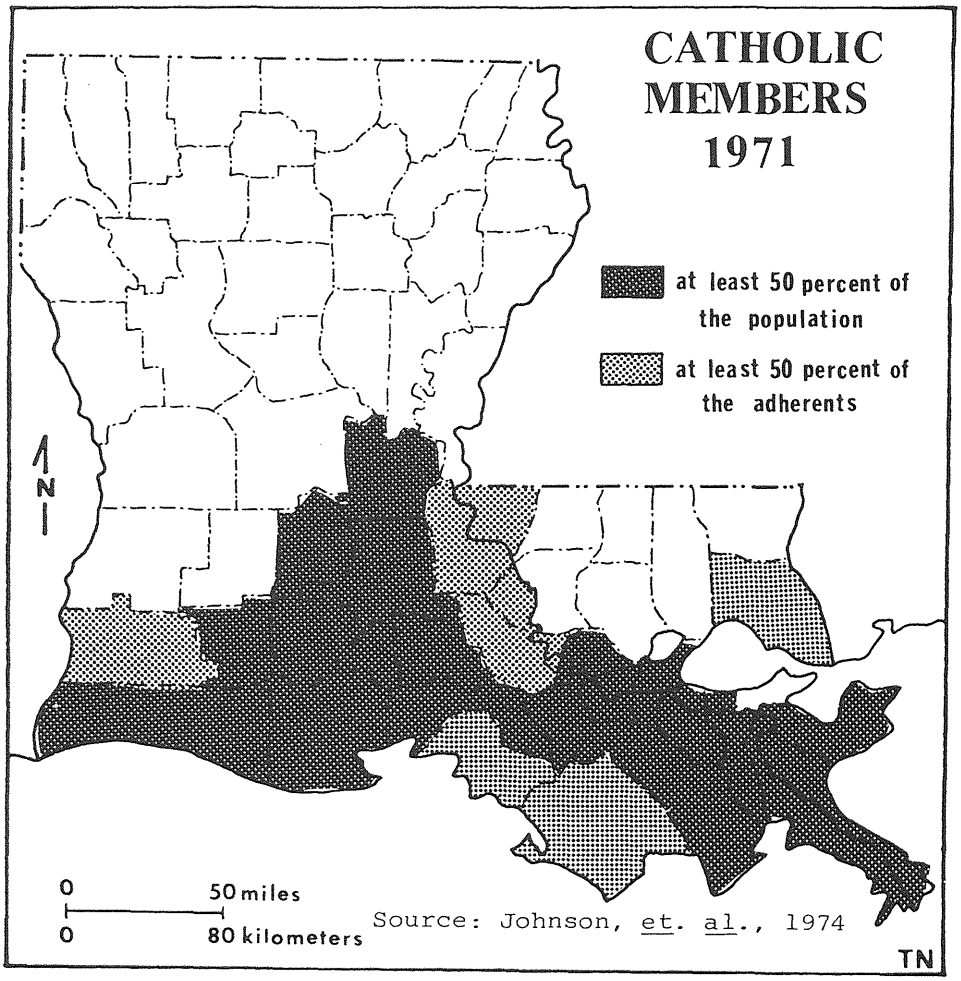
初期の奴隷輸入は西インド諸島の砂糖プランテーションへの労働力供給のために，フランス人によって行われた．ルイジアナは1701年から1810年までの間に，28,300人の奴隷を輸入したと推定されている[18]．後に到着した黒人の大多数は，イギリス人による北アメリカ貿易によって大西洋岸に輸入された奴隷であった．南部低地人によって購入された奴隷達は，1803年のルイジアナ購入以後にルイジアナの綿花やサトウキビプランテーション地域に導入された[19]．

南ルイジアナのかなりの黒人はフランス語を常用する．彼らのうちのある部分は，フランス語を話す西インド諸島から来たものであると考えられるが，ケイジャンアクセントは，彼らがケイジャン文化に同化したことを伺わせる[20]．

黒人と白人の差は，単なる人種的アイデンティティの差ではなく，その起源と歴史的経緯の差異でもある．黒人は南北戦争後の奴隷解放までは，強制労働を強いられ，また奴隷解放後も，1960年代の公民権運動までは法的な差別待遇を受けてきた．職業，所得，社会階層，教育などの社会経済的側面にかなりの不利を被ってきた．黒人と白人の墓地景観の差異は，単にアイデンティティの差以上に様々な社会経済的条件を反映している[21]．

Ⅱ－4　都市と農村

都市の集団は農村集団といくつかの点で異なっている．まず，かなりの農村住民が農業に従事するのに対して，都市住民の大多数は農業以外の仕事についている．事業家，商人，行政家，教育家，弁

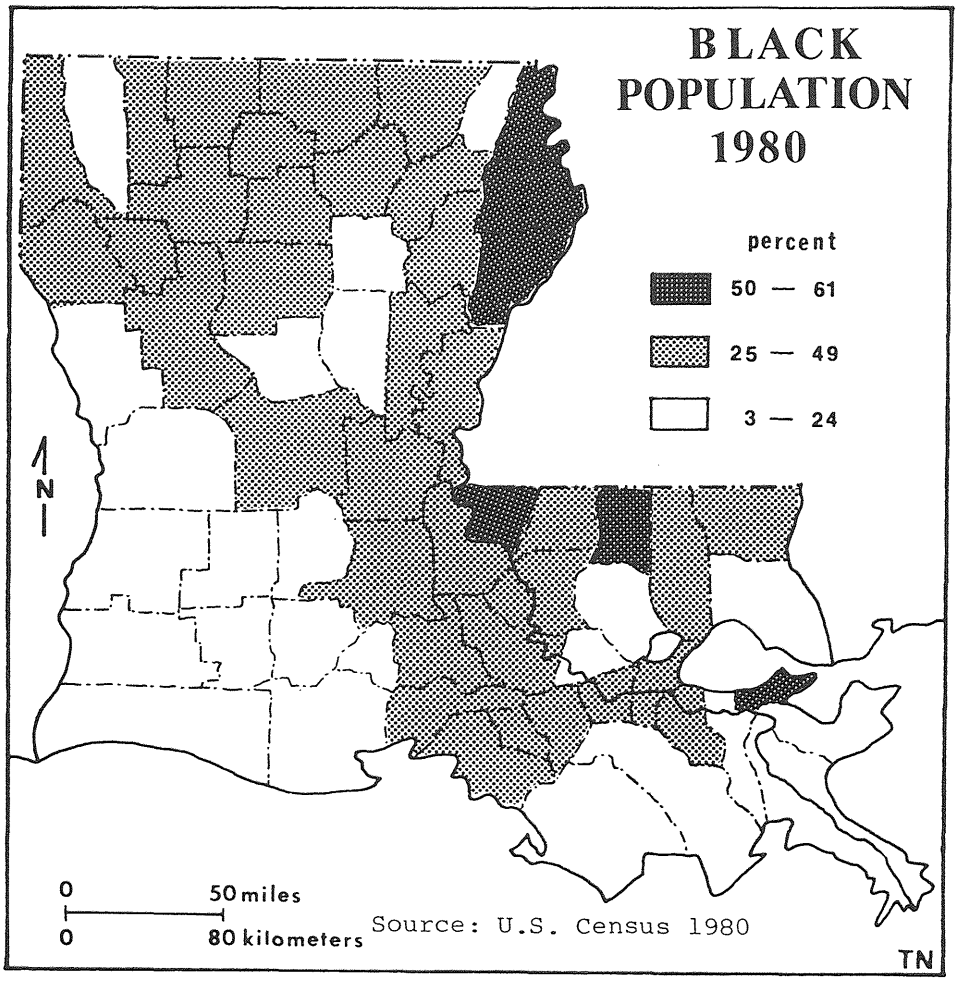


第3図　ルイジアナ州におけるカトリック教会員の分布（1971年）
資料：Johnson D. W. *et al.* (1974)：*Churches and Church Membership in the United States.* Glenmary Research Center, Washington, D. C.

護士，医者などは主に都市に住んでいる．都市住民は，地方的文化よりも国家的な新しい文化を取り入れようとする傾向が強い．したがって，都市と農村の差は，革新性と保守性の差であり，また，アイデンティティを表現する対象が国家的文化か地方文化かの差である．

1980年のセンサスによると，ルイジアナ州人口の68％が2,500人以上の都市に居住し，人口1,000以上の町を含めると都市人口は全体の72％となる．

本研究では，人口2,500以上の場所を都市とするセンサスの定義をそのまま用いると，いくつかの不都合が生ずる．まず，2,500人以下の町においても，都市的な商業・社会・居住機能を持つ場合が多い．また，いくつかの郡庁（parish seat）が，人口2,500に達しないために，都市とはみなされない．さらに，多くの都市住民のの墓地は都市の境界の外に分布するので，墓地の位置が単に都市境界の中



第4図　ルイジアナ州における黒人の分布（1980年）

にあるか否かで都市・農村墓地を定義することは実態にはあわない.

したがって，本稿では都市墓地を(1)郡庁所在地，(2)1,000人以上の人口を持つ場所，または(3)これらの都市の境界から1マイル以内の場所，と定義する.

Ⅲ　サンプル墓地における集団の特性

墓地の定性的な側面を分析する際には，実地調査によるデータ収集が不可欠となる．ここでは，サンプル墓地を抽出し，その実地調査によって収集された墓地景観および墓地を形成する集団に関するデータを分析する．フィールドワークによるデータ収集は，筆者によって1984年の12月から1985年の5月にかけて行われた.

Ⅲ－1　サンプル墓地の抽出と分類

サンプル墓地の抽出は，ルイジアナ州全域をおおい，カトリックとプロテスタント墓地，白人と黒人墓地，都市と農村墓地それぞれを含み，かつ主観的な偏りを最小限とするために，つぎのような基準によって行われた．まず，ルイジアナ州をおおう62,500分の1の地形図から，その中心点に最も近い場所に存在する墓地が1つずつ抽出された．ルイジアナ州よりも他州にかかる面積の方が大きい地形図は，サンプルを抽出する地形図から除外された．それに加えて，分析の対象とする墓地を，1930年以前に設立され，かつ調査当時においても使用されているものでなければならないとし，最も地図の中心点に近い墓地が，この2条件を満たさないことが現地で判明した場合には，次に中心点に近い墓地を抽出し，調査することにした．この抽出法で，まず178墓地が選定された．

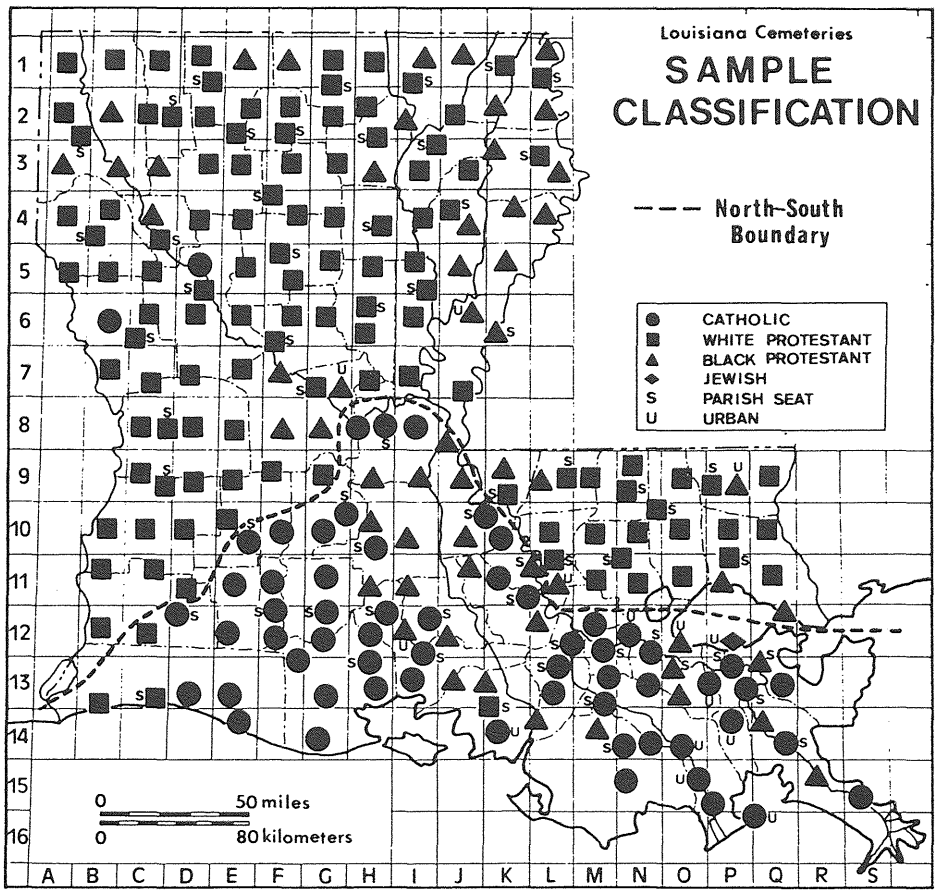
しかし，この方法では，サンプルに人口の多い都市や，地域に優勢な宗教の墓地が含まれていない場合が多い[22]．この欠点を補うために，これらの墓地に加えて，それぞれの郡庁所在地から1つずつ墓地が抽出された．2つ以上の墓地が郡庁所在地に存在する場合には，その都市の性格を代表させると思われる墓地を，設立年代や人種や宗教などの観点から判断して選択した．この方法は幾分恣意的であるが，代表的な墓地の選択にはほとんど問題がなかった．この第2の抽出法によって58の墓地が加えられ，計236のサンプル墓地が決定した．

このサンプル墓地の帰属集団を地図上に表現したものが第5図である．南北ルイジアナの区別は，すでに設定した境界線によって行われる．都市に立地する墓地は"S"（郡庁所在地）や"U"（その他の都市）の記号で表現し，カトリック墓地（すべて白人が大多数を占める）を円形，白人が卓越するプロテスタント墓地を正方形，黒人のみによって構成されるプロテスタント墓地を三角形，そしてユダヤ人墓地をひし形によって表現した．

この結果，236のサンプル墓地は，地域的には148の北ルイジアナ墓地と86の南ルイジアナ墓地に，宗教的には61のカトリック墓地と174のプロテスタント墓地と1つのユダヤ人墓地に，人種的には178の白人（ユダヤ人を含む）墓地と58の黒人墓地に，そして76の都市墓地と160の農村墓地に分類された．それぞれの集団に属する墓地の数は，それぞれの集団の文化特性を一般化するうえで十分なものと考えられるが，必ずしもそれぞれの集団の人口に比例しないために，各々の文化をルイジアナ文化に統合するときには，集団の規模を考慮する必要があろう．また，1930年以後に設立された墓地を排除したために，新しい墓地形態であるメモリアルパークがサンプルには含まれなかった．ルイジアナ文化の現代的側面のひとつが欠けていることにも留意する必要がある．

ここで注目すべきは，ルイジアナ州の墓地集団の単位として宗教と人種が重要な要素となっていることである．しかも，単にカトリックかプロテスタントか，または白人か黒人かという単位ではなく，両者が組み合わされ，カトリック，白人プロテスタント，黒人プロテスタントという3つの種類の集団が形成されている．このことは，ルイジアナ州の文化構造のかなりの部分を，この3種類の集団のモザイクとして表現できる可能性を示している．

北ルイジアナと南ルイジアナの地域的差異の大部分は，この3種類の集団の分布密度の差異として表現できるように思われる．幾分作為的な抽出を行ったとはいえ，サンプル墓地はこれらの宗教・人



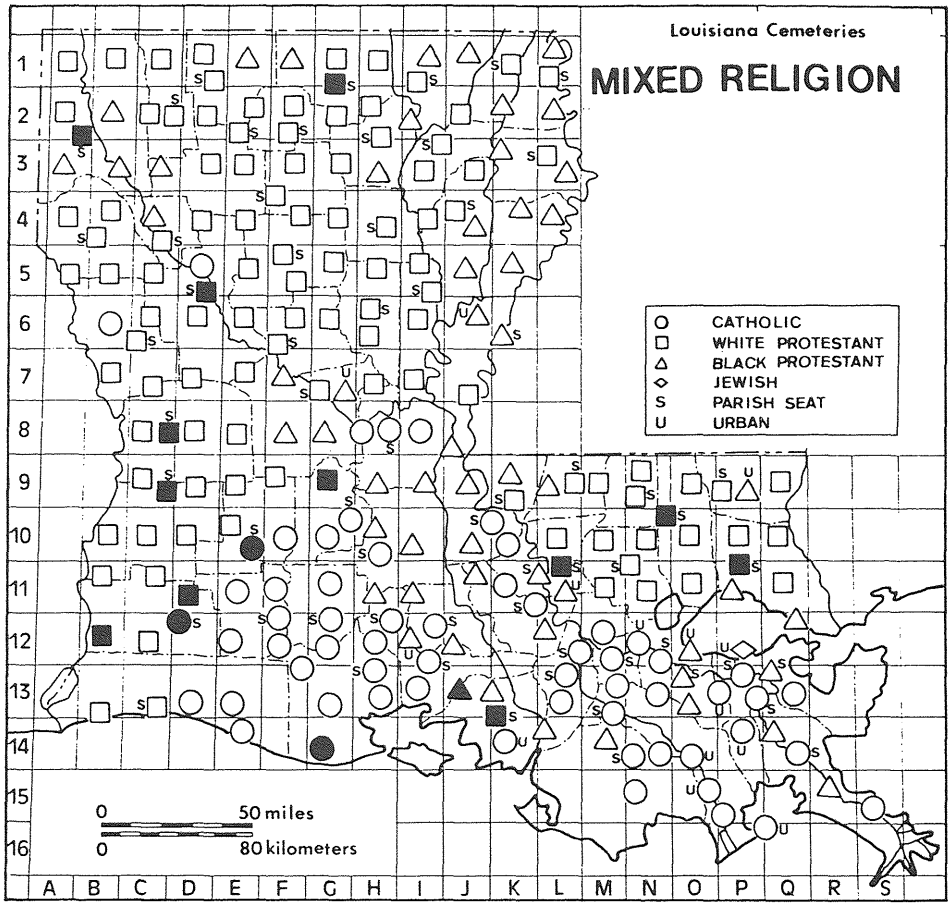
第5図　サンプル墓地の分布

種集団の地域的分布パターンを明瞭に反映している．白人プロテスタント墓地は，4墓地を除いてすべて北ルイジアナに存在するのに対して，カトリック墓地は，2墓地以外すべて南ルイジアナに分布する．黒人プロテスタント墓地は，ミシシッピ川，レッド・リバー川，バイユー・ラフーシュ川の氾濫原を中心に，黒人人口率の高い南北ルイジアナの諸地域に分布している．

この宗教・人種集団の分布の地域差に，都市・農村の差異が重なり，ルイジアナの文化の地域的パターンを形成していることが考えられる．サンプルとして抽出された都市墓地には，黒人プロテスタントのものは少なく，北ルイジアナにおいては白人プロテスタント，南ルイジアナではカトリック墓地の割合が高い．これは，郡庁所在地からの墓地の抽出が，大きな白人墓地を中心に行われたことにもある程度起因していると思われる．

Ⅲ－2　宗教的構成

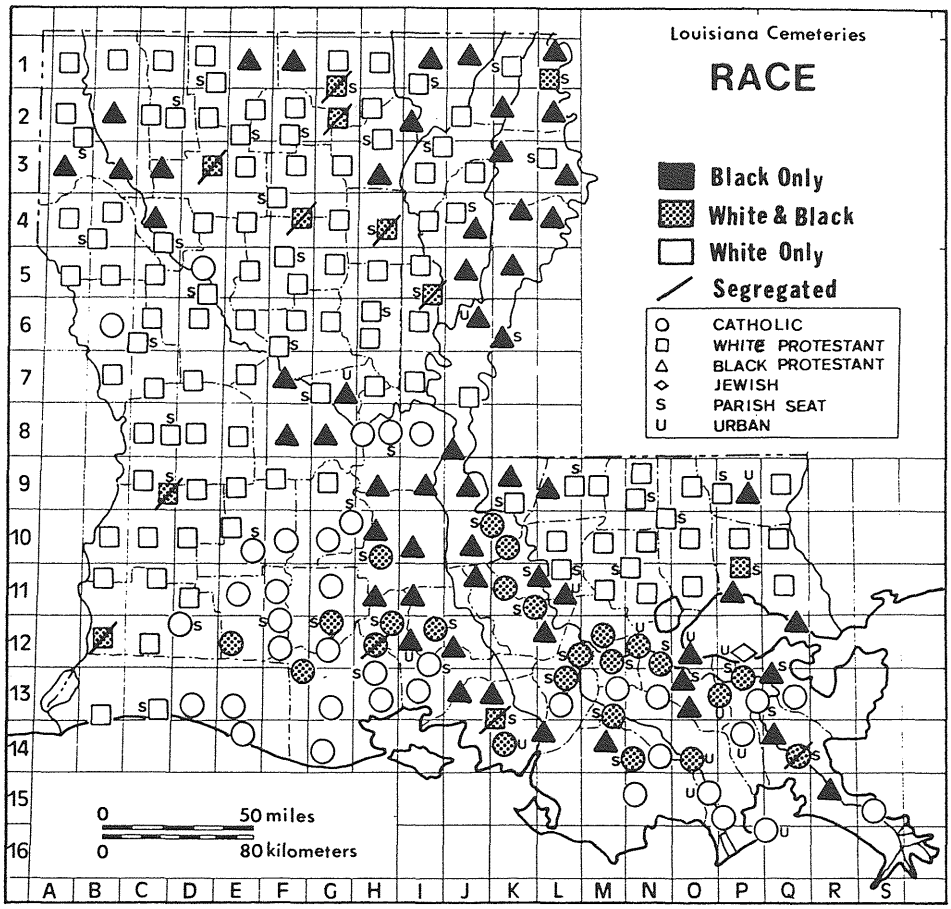
大多数の墓地は，カトリックのみあるいはプロテスタントのみによって構成されている（第6図）．ここでは，カトリックとプロテスタントとユダヤ教をそれぞれ異なった宗教とみなし，宗教混成



第6図　サンプル墓地の宗教構成
注：黒く塗りつぶした記号は，異なった宗教に属する人々の墓が全体の10％以上を占める墓地を示す．

（mixed religion）墓地を，10％以上の墓の埋葬者がマジョリティとは異なった宗教であると推定される墓地と定義する．大きな墓地になると人々はすべての埋葬者の宗教を知らない場合が一般的であるが，10％以上の異宗教が混在する場合には，その存在は景観的にも，人々の意識にも明らかに現れる場合が多い．ここでは，住民の意識に余りのぼらないプロテスタント諸教派の間の差異を考慮しないこととする．

サンプル墓地の中で宗教混成墓地は16にすぎない．このうち，11墓地が都市の墓地である．これは，市営墓地が世俗的なものであり，埋葬者の宗教への帰属を問題としないことによるものと思われる．また，宗教混成墓地の多くは，民族的に混成的な地域に分布している．７つの墓地（地図上の位置９G，10E，11D，11L，11P，12B，10D）は，南北ルイジアナの境界領域にあり，また，南ルイジアナの２つの墓地（13J，13K）は，かつてのアングロサクソン系民族島に位置している．同様に，北ルイジアナのナッカトッシュ（５D）は，かつてのフランス系民族島であり，後にプロテスタントが



第7図　サンプル墓地の人種構成

優勢となった地域である．

宗教的セグリゲーションは，キリスト教とユダヤ教の間で顕著である．ファーマーヴィル墓地（1G）とオークランド墓地（2A）は，柵によって分離されたユダヤ人地区が存在する．これに対して，カトリックとプロテスタントの間のセグリゲーションはそれほど顕著ではない．わずかにマグノリア墓地（11L）の南部とエイミート市営墓地（10N）の中央部にまとまったカトリックセクションが存在するが，そこを柵で囲むということはない．

以上のように，ルイジアナの墓地は，一般的に宗教的均質性を指向しており，大多数の墓地は1つの宗教によってのみ構成されている．ユダヤ教とキリスト教の混合はとくに嫌われているようであるが，カトリックとプロテスタントも明瞭に分離する傾向が強い．

Ⅲ－3　人種構成

サンプル墓地の85％にもおよぶ墓地が1つの人種のみで構成されており，かなりの人種的均質性を示している（第7図）．なかでも，黒人プロテスタント墓地には，白人の墓の存在は一例も確認でき

なかった.

人種が混成する墓地の割合は,白人プロテスタントでは18%であるのに対して,カトリックでは39%にも及んでいる.カトリックは,独立した黒人墓地を形成するかわりに,白人が大多数を占める墓地の一部を黒人も使用するという形態をとっている.その大多数の墓地においては,裕福な白人が墓地の中央を占め,黒人が周辺部に固まる場合があるが,必ずしもその分離は明瞭ではない.最も人種的分離が明瞭な事例として,セント・トーマス墓地(14Q)は,白人地区と黒人地区が中央の通路を隔てて明瞭に東西に分離しており,セント・アルフォンサス墓地(12H)は,黒人が分離した地区と独自のセントラルクロスを有している.しかし,この2墓地においても人種的分離は曖昧になってきており,セント・アルフォンサス墓地で白人地区と黒人地区を分けていた柵は1960年代末に撤去された.

これに対して,白人プロテスタント墓地においては,人種的セグリゲーションが顕著である.人種混成の11プロテスタント墓地のうち,9墓地が柵によって分離された黒人セクションを持っている.黒人地区と白人地区は同じ墓地名を持っているが,実質的には別の墓地として機能しており,墓地の管理は別々に行われている.

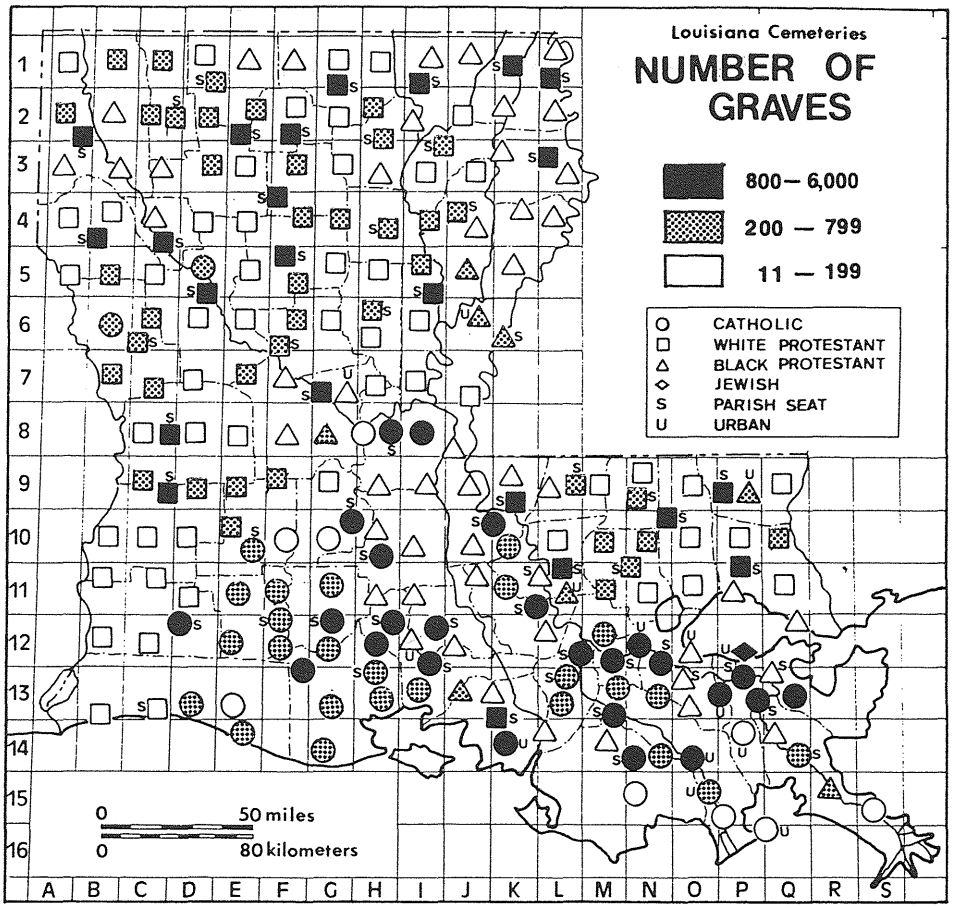
このカトリックとプロテスタントの差異は,宗教的組織の性格の差をある程度反映しているものと思われる.ローマカトリック教会は,教会権威の主導する監督制のもとで,信者の一致を強調しており,教会によって設定される教区の黒人と白人は同じ教会に行き,同じ墓地に葬られる.これに対してプロテスタントは,キリストを通じた神との個人的な関係を強調しており,個人主義的な傾向を持つ.その結果,墓地を形成する自発的集団は小さな単位となる.白人と黒人は,同じ集団となることを強制されないために,異なった集団を形成する.

人種混成墓地は,都市墓地において比較的顕著である.混成墓地の割合は,都市墓地では32%であるのに対して,農村墓地では6%にすぎない.都市墓地の中には,宗教や人種を問わない市営や民営の墓地が含まれることがその要因であろう.それに加えて,都市住民の地域社会へのアイデンティティの相対的な弱さが,人種的混成に対する抵抗を低下させたとも考えられる.

Ⅲ－4　規模

墓地を形成する単位集団の規模を有効に表現する指標のひとつは,墓地の中に存在する墓の数であろう.ここでは,1つの墓を1つの遺体に割り当てられた空間と定義する.地上埋葬墓は,その室数によって墓数とみなされる.モウソレウムやウォールド・ヴォールトと呼ばれる納棺堂は,調査時には数えられなかったため,ここでは除外して考察する[23].

墓地の規模は,墓数が11から6,000まで多様であるが,カトリック,白人プロテスタント,黒人プロテスタントの集団によって明瞭なパターンを示す(第8図).最も大きな墓地は,カトリック墓地であり,平均1,068の墓をもっている.これに対して白人プロテスタント墓地は520と,カトリックの半分の規模であり,黒人プロテスタント墓地にいたっては,平均墓数が119と,カトリックの9分の1程度にしかならない.これは,それぞれの墓地集団単位の規模とある程度の対応を示していると思われる.カトリックは,教会組織を通じて,大きな集団に組織されるのに対して,コミュニティの外



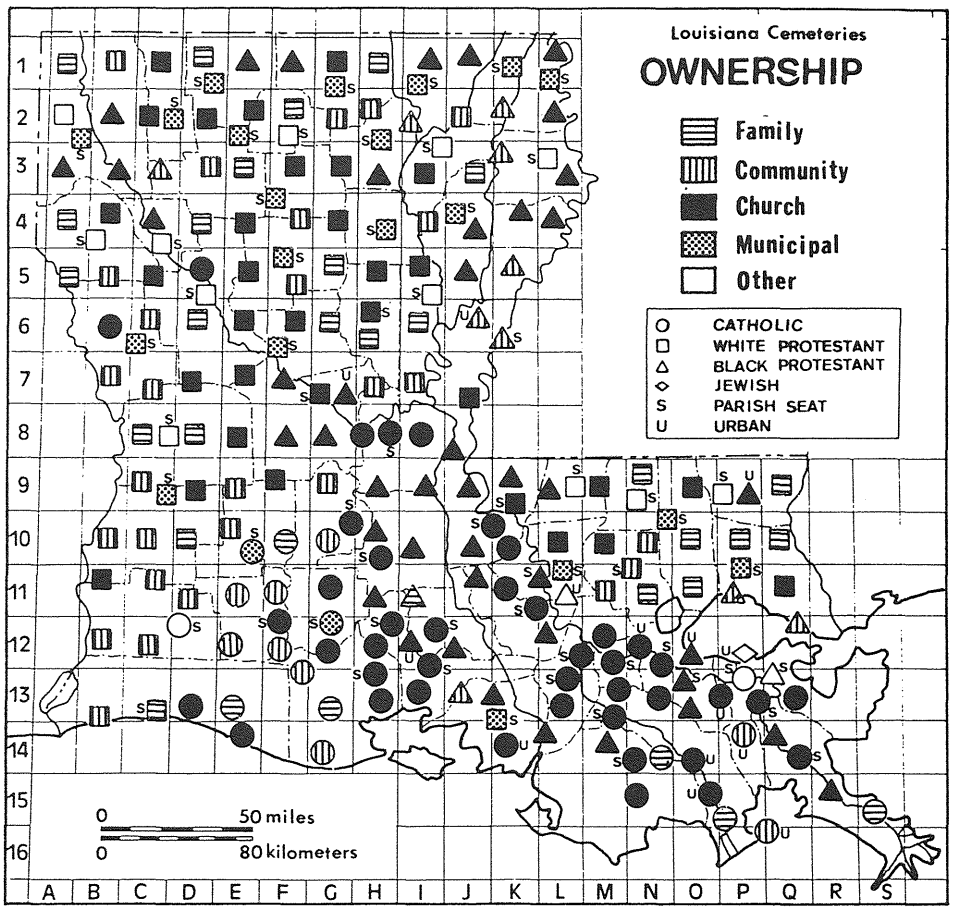
第8図　サンプル墓地の規模

部からの権威の影響をあまり受けないプロテスタントは，小さな単位で集団を形成する．とくに黒人の集団規模は小さいものと考えられる．この3集団の南北ルイジアナでの分布の差異が反映して，南ルイジアナ墓地の平均墓数は848と，北ルイジアナ墓地の414の2倍以上となっている．

都市墓地と農村墓地も大きな対照を示す．都市墓地は，平均1,355の墓を持ち，農村墓地の205の6.6倍にも及んでいる．郡庁所在地から大きな墓地を意図的に選択する抽出法を用いたことを差し引いても，都市において単位が大きい墓地集団が多いことは疑いのない事実であろう．都市墓地を地域別にみると，南ルイジアナでは，大多数の都市墓地が800以上の墓を持つのに対して，北ルイジアナの都市墓地においては，墓数800未満の墓地もめだつ．

Ⅲ－5　所有形態

ルイジアナ州における墓地集団の単位としては，家族，集落，教会，市，民間，秘密結社などがある．この所有形態は，変化することもある．たとえば，墓地の形成時には家族墓地であったものが，後に集落や教会に移管される場合もしばしばある．ここでは調査当時の所有形態を考察の対象とする．



第9図　サンプル墓地の所有形態

サンプル墓地を分類すると，家族墓地が34，集落墓地が46，教会墓地が117，その他の墓地が17となる（第9図）.

集団による所有形態の差異は，教会墓地の割合に最も明瞭に現れている．まず，カトリック墓地の68％が教会墓地である．カトリックは，伝統的に墓地の神聖さを司祭による定期的な儀式を通じて表現するために，墓地を教会に隣接することが多いものと思われる.

同様に，教会墓地が黒人プロテスタント墓地に占める割合も高く，77％にも及んでいる．教会墓地が多いことでは，カトリック墓地と類似しているが，カトリックとは異なり，墓地の聖めを行わない．黒人プロテスタント教会は，一般的に白人プロテスタント教会よりも小規模であり，様々なコミュニティ活動の単位として教会が機能する場合が多い．墓地の管理もそのコミュニティの活動の一環として捉えられる.

これに対して，白人プロテスタント墓地のなかで教会墓地の割合は25％と相対的に低く，家族墓地（23％），集落墓地（23％），市営墓地（17％）と大差ない．白人プロテスタントにとっても，墓地は聖なる場所であるが，儀式的な聖めを必要とする場所ではない．現在教会墓地であるものの中にも，

当初は家族墓地や集落墓地であったものが多く，後に墓地に隣接して教会が建てられ，管理が移管されたものが多い[24]．白人プロテスタントにとって墓地の管理は世俗的な業務であり，墓地管理の責任は，市や集落や家族に帰せられる場合が多い．

これらの3集団の分布の差により，南ルイジアナにおける教会墓地の割合（69％）は北ルイジアナ（37％）よりもはるかに高いという地域的パターンが生まれる．北ルイジアナでは，教会墓地以外に，家族・集落・市営墓地など様々な所有形態がみられる．

都市墓地と農村墓地における教会墓地の割合は，それぞれ42％，53％と大きな差を示さない．都市墓地の特徴としては，家族墓地や集落墓地が少なく，市営墓地や民営墓地が多いことであろう．たしかに，都市墓地のサンプルとして意図的に規模の大きなを選定したというがこのパターンに現れている．しかし，日常的な観察によっても，都市墓地は大きな単位である市や民間や教会諸組織によって管理される傾向が強いのに対して，農村墓地はしばしば小さな単位である家族や集落によって所有される傾向が強いことが確認される．

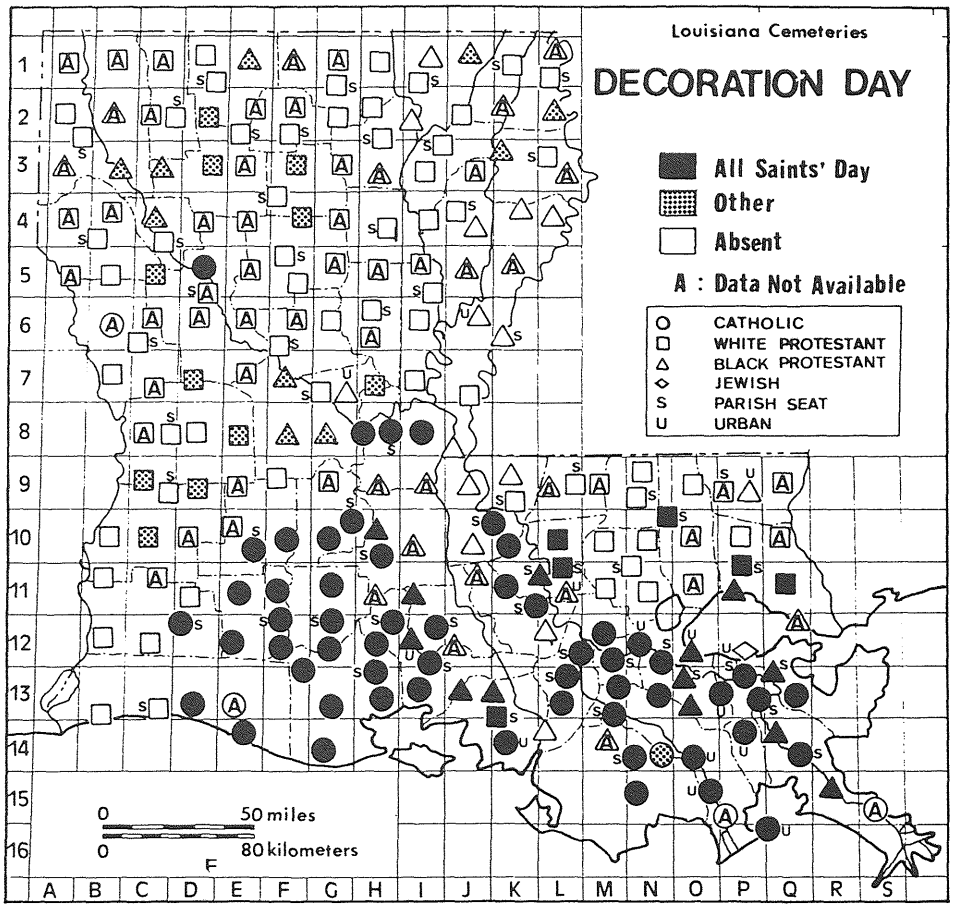
すなわち，墓地を所有する集団単位は，カトリックの儀式の尊重，白人プロテスタントの管理意識の世俗性，黒人プロテスタントのコミュニティ単位としての教会の重要性，都市集団単位の大きさ，農村集団単位の規模の小ささなどを反映している．

Ⅲ－6　墓地清掃日

伝統的な埋葬慣行は，埋葬，墓参り，墓地清掃など，墓地を中心に行われる様々な集団活動を通じて引き継がれる[25]．ここでは，集団が一同に墓地に会する日を墓地清掃日と便宜的に定義し，その日を集団ごとに比較する．実地調査においては63墓地のデータを入手できなかったが，それでも極めて明瞭な集団的パターンを示すことができた（第10図）．

カトリックにとって，墓地において儀式を行う日は11月1日の諸聖徒日（All Saints' Day）である．墓地によっては，11月2日の諸魂日（All Souls' Day）やその前後の日曜日に儀式を行う場合もある．ここではこれら諸聖徒日前後に行われる儀式も，諸聖徒日と同じ性格のものとみなし，同じ用語を用いて考察する．カトリックの人々は10月末から，その準備を始め，雑草とりや芝刈りや墓の修繕などを行う．典型的なカトリック墓地では，諸聖徒日当日には，人々は墓地を訪れ，入り口で墓地管理費を納入し，菊を墓に供える．人々はセントラルクロスに集まり，司祭によってミサが行われる．その後に，司祭は聖水でそれぞれの墓を聖める．

これに対して，北ルイジアナの白人プロテスタント墓地では，伝統的に"cemetery clearing day"や"cemetery decoration day"や"homecoming"などの名で呼ばれる墓地清掃日があった．一般的に，墓地清掃日は4月か5月の土曜日であるが，それに加えて夏や秋にも清掃日を設ける墓地もある．当日には，コミュニティのメンバーは墓地に集まり，墓を装飾したり，雑草をとったり，地面にレーキをかけたりする．伝統的な南部台地の農村墓地には，草を除去し，地面をむき出しにするスクレーピングscrapingを行う墓地が存在する[26]．この作業は男女の大人と子供すべてによって行われる．昼時には，墓地に供えられているテーブルに食事が並べられる．カトリック墓地とは異なり，当日形式的な宗教



第10図　サンプル墓地における墓地清掃日

儀式は行われない.

黒人プロテスタント墓地においても墓地清掃日が設けられる場合があるが，スクレーピングを行っている墓地は少ない.

南北ルイジアナにおける諸聖徒日の墓参の有無の差異は，両地域におけるカトリックの有無にほぼ対応している．しかし，注目すべきことは，南ルイジアナやその周辺の白人・黒人プロテスタント墓地も，諸聖徒日やその前後の日曜日に墓地を訪れることである．もちろんプロテスタントは，カトリックのようなミサを行うことはないが，その日を墓地清掃日とすることは，その地域に大多数を占めるカトリックの慣行にならったものと思われる.

収集できたデータのみから判断すると，白人・黒人プロテスタント墓地において，清掃日はほぼ農村墓地に限って存在する．市営墓地や民営墓地などは，雇用人によって管理がなされている．農村墓地においても墓地清掃日はなくなりつつある．カトリックにおける諸聖徒日の儀式とは異なり，プロテスタントにおける墓地清掃は，教会権威によって指示されるものではない．農村において，社会的結束が弱まり，個人主義が強くなるにしたがって，墓地清掃日は消滅する．現在，プロテスタント墓

地で行われている墓地清掃の内容も，芝刈りが中心となってきている．

Ⅳ 結　論

本稿は，墓地を形成する集団を，ルイジアナ州における文化集団の最小単位とみなし，その集団の分析からルイジアナ州の文化的モザイク構造を導きだそうとするものである．ここでは，結論として今まで行った分析の結果をふまえて，第1図に現れた墓地分布の文化的意味を探り，ルイジアナ文化の地域性解明を試みる．

墓地に反映したルイジアナ州の文化は，ユダヤ人などの例外を除くと，その大部分をカトリック，白人プロテスタント，黒人プロテスタントからなる3種類の文化集団のモザイク構造として捉えることができる．カトリックの集団単位は最も大きく，白人プロテスタントの倍以上のものと考えられ，最小の規模である黒人プロテスタントの集団単位は，さらに白人プロテスタントの半分以下であると推定される．したがって，ルイジアナ州全体では，カトリック集団の単位数は少ないが，黒人プロテスタント集団の単位数は人口に比して多い．

カトリック集団は，教会組織に基づいて形成されており，人種的にも白人と黒人の両者を含む場合が多い．墓地も墓地を舞台として行われる諸聖徒日の儀式も，教会を中心とする儀礼的な色彩が強く，この大きな集団が宗教的な儀礼を核に結びつけられていることがうかがえる．

これに対して，白人プロテスタント集団は，黒人とは混じることは少なく，人種的に均質な集団となっている．教会を核に集団を形成する度合いははるかに低く，家族や集落など世俗的な単位でまとまっている．墓地清掃や管理も宗教とは直接関係のない世俗的な関心事であり，それゆえ集団の結束の弱体化とともに，共通の墓地清掃日も消滅してきている．

黒人プロテスタント集団も，人種的に極めて均質的である．カトリックと同様，教会を核とした集団を形成しているが，カトリックとは異なり，儀礼的な意味あいはほとんどもたない．黒人プロテスタントは教会を単位としてコミュニティを形成することが多く，墓地の形成と管理もコミュニティ活動のひとつとなっている．

南北ルイジアナの文化的差異の大部分は，この3種類の集団単位の分布の地域差によるものであると考えられる．カトリックの大多数は南ルイジアナに分布するのに対して，ほとんどの白人プロテスタントは北ルイジアナに住んでいる．そして，黒人プロテスタントは，南北ルイジアナのプランテーション地域を中心に分布している．この3種類の集団の密度差が，ルイジアナ州の文化の地域性を生んでいる．しかし，南ルイジアナやその付近の白人・黒人プロテスタント墓地のいくつかが諸聖徒日を墓地清掃日としているところなどに見られるように，それぞれの集団は，少数派となる地域において幾分多数派の文化要素を採用する場合があることも注目に値しよう．

ルイジアナ州の文化は，この3種類の集団のモザイク構造を基調としつつ，それに都市・農村間のコントラストというアクセントを加えている．都市・農村の差異は主に集団単位の規模の差異に反映している．都市では集団の単位が大きく，人種的にも幾分の混在がみられる．市営墓地などでは，個人が集団の意思決定に参加しているという意識は低く，既成の集団に加わるのみという感覚が強いと

推定される．これに対して農村集団の規模は小さく，個人の集団への参加意識は強いと思われる．

これらの結果から，第１図に現れた分布を捉え直すと，南北ルイジアナの墓地密度の差異に，それぞれの地域に卓越する集団単位の規模の差異が反映していることが容易に推定される．北ルイジアナの墓地密度は，南ルイジアナの1.5倍であり，単位人口当たりの墓地数も，南ルイジアナの3.1倍にもおよぶ．これは，北ルイジアナに白人プロテスタント墓地が多く，その多くが小さな家族墓地や集落墓地や教会墓地であるのに対して，南ルイジアナには，大きなカトリックの教会墓地が多いことを現している．また，墓地の分布は都市よりも農村に多くみられるが，それは都市墓地が農村墓地よりもはるかに大きいことの現れである．

地域的にみると，北ルイジアナでは，地形的制約の少ない丘陵地や台地上で，人々が散村的な集落を形成し，少ない人数の単位で墓地集団を形成しているが，南ルイジアナの氾濫原や湿地では，限られた微高地に集村が形成され，墓地もその地域に密集している．それに加えて，黒人プロテスタント墓地が南北ルイジアナにまたがって，大河川の流域を中心とする地域に分布している．３種類の集団それぞれが，異なった規模と性格の集団単位を形成し，その集団の地域的分布の差異が，集団の属性を反映させながら分布図に現れているものと考えられる．

本稿における分析の結果，複雑な人間世界の文化的側面を解明する上で，墓地という核を基礎単位として人間集団をまとめることが有効であることが確認された．本稿では，筆者の過去の研究を発展させ，集団を単に操作的に定義するかわりに，住民が自らの意思で集団形成するパターンを捉えることによって，より有効な集団設定を行うことができたものと思われる．

注・参考文献

1) Price, L. W. (1966)：Some results and implication of a cemetery study. *Professional Geographer*, **18**, 201-207.

2) Kniffen, F. B. (1967)：Necrogeography in the United States. *Geographical Review*, **57**, 426-427.

3) Deetz, J. F. and Dethlefsen, E. S. (1967)：Death head, cherub, urn, and willow. *Natural History*, **76** (3), 28-37.

Dethlefsen, E. S. (1981)：The cemetery and cultural change –archaeological and ethnographic perspective–. *In* Gould, R. and Schiffer, M. B. eds, Modern Material Cuture. Academic Press, New York, 137-159.

4) Jordan, T. G. (1982)：*Texas Graveyards –A Cultural Legacy–*. Univ. of Texas Press, Austin.

5) Sopher, D. E. (1967)：*The Geography of Religion*. Prentice-Hall, Englewood Cliffs.

6) Young, F. W. (1960)：Graveyards and social structure. *Rural Sociology*, **25**, 446-450.

7) 中川　正 (1990)：ルイジアナ州における墓上構造物と装飾品．人文地理学研究，**14**, 145-168.

8) 中川　正 (1991)：ルイジアナにおける墓地植生．人文地理学研究，**15**，125-144.

9) 中川　正 (1992)：ルイジアナ州における墓標景観．人文地理学研究，**16**, 59-80.

10) Nakagawa, T. (1990)：Louisiana cemeteries as cultural artifacts. *Geographical Review of Japan (Ser. B)*, **63**, 139-155.

11) Knipmeyer, W. B. (1956)：*Settlement Succession in Eastern French Louisiana*. Unpublished Ph. D. Dissertation, Louisiana State Univ., Baton Rouge.

Havard, W. C., Heberle, R. and Howard, H. (1963): *The Louisiana Election of 1960*. Louisiana State Univ. Press, Baton Rouge.

Newton, M. B. (1975)：Blurring the North-South contrast. *In* Del Sesto, S. and Gibson, J. L. eds., Cultures of Acadiana. Univ. of Southwestern Louisiana, Lafayette, 42-48.

12) 前掲 10), p.151.

13) Newton, M. B. (1974) : Cultural preadaptation and the Upland South. *Geoscience and Man*, **5**, 148-150.

14) Newton, M. B. (1987) : *Louisiana –A Geographical Portrait–, 2nd ed.* Geoforensics, Baton Rouge, 171-207.

15) Kniffen, F. B. (1968) : *Louisiana –Its Land and People–*. Louisiana State Univ. Press, Baton Rouge, 156-160.

16) 合衆国において，キリスト教会の会員数をもれなく掲載した公的なデータは存在しない．ここでは，1971年に行われた主要教派の会員数の調査結果をもとに推定を行ったが，この調査には，小数派のプロテスタント教派のデータが欠落している．

Johnson, D. W., Picard, P. R. and Quinn, B. (1974): *Churches and Church Membership in the United States.* Glenmary Research Center, Washington, D. C.

17) American Jewish Committee (1985) : *American Jewish Yearbook 1985.* American Jewish Comittee and the American Jewish Publication Society, New York.

18) Curtin, P. D. (1969) : *The Atlantic Slave Trade.* Univ. of Wisconsin Press, Madison, p.215.

19) Spitzer, N. R. (1979) : Afro-Americans in South Louisiana. *In* Spitzer, N. R. *et al.* eds, Mississippi Delta Ethnographic Overview. Jean Lafitte National Historical Park of Louisiana, Baton Rouge, p.277.

20) Spitzer, N. R. (1979) : Cajuns and black Creoles. *In* Spitzer, N. R. *et al.* eds, Mississippi Delta Ethnographic Overview. Jean Lafitte National Historical Park of Louisiana, Baton Rouge, p.138.

21) Nakagawa, T. (1987) : *The Cemetery as a Cultural Manifestation –A Necrogeography–*. Unpublished Ph. D. Dissertation, Louisiana State Univ., Baton Rouge, 267-273.

22) たとえば，筆者が墓地の悉皆調査を行ったアセンション郡では，85%の住民がカトリックであるにもかかわらず，プロテスタントの墓地の数がカトリックの墓地数の5.6倍になっている．ランダムサンプリングを行うと，この郡の大多数を占めるカトリックの大墓地を，サンプルに含めない可能性が高い．

中川　正 (1988) ：ルイジアナ州アセンション郡における墓地形態－死の地理学序説－．人文地理学研究，**12**, p.119.

23) サンプル墓地のうち34に納棺堂が分布するが，1つがユダヤ人墓地，2つが白人プロテスタント墓地であるのを除けば，他はすべて南ルイジアナのカトリック墓地に分布する．したがって，実際には，カトリック墓地の規模は，ここで表現されている数字以上のものであると考えられる．また，この34墓地のうち，都市墓地は21である．

前掲 21), 113-116.

24) Jeane, D. G. (1969) : The traditional Upland South cemetery. *Landscape*, **18** (2), p.39.

Jeane, D. G. (1978) : The Upland South cemetery –an American type–. *Jounal of Popular Culture*, **11**, p.896.

25) 前掲 14), p.199.

26) 前掲 8), 131-132.

Louisiana Cemeteries as Manifestations of Group Identity

Tadashi NAKAGAWA

Based upon the recognition that a cemetery is a unit of cultural group identity, this study identifies mosaic patterns of Louisiana culture groups through examination of group attributes expressed in cemeteries. After making a distribution map of cemeteries, 236 cemeteries were sampled for a systematic data collection. The fieldwork was conducted by the author between December 1984 and May 1985. The data were analyzed to elucidate group attributes.

The analysis indicates that the Louisiana culture forms a cultural mosaic of Catholics, white Protestants, and black Protestants. The group unit of Catholics is the largest, while that of black Protestants is the smallest. Catholic groups were formed in part under the direction of the church leadership. A group unit usually contains both white and black people. The location, ownership, and activities of the cemeteries reflect ritualistic nature of the group. By contrast, white Protestants rarely mix with blacks. The role of the church in group formation is smaller. Many of white Protestant cemeteries are family, community, or municipal cemeteries. Cemetery decoration is considered as a secular community activity. Black Protestants are also racially homogeneous. Although their groups were formed with churches as their cores, they do not have a strong ritualistic nature.

Cultural variation between North and South Louisiana derived from the different distribution of these three groups. While the majority of Catholics live in South Louisiana, North Louisiana have most white Protestants. Black Protestants occupy the plantation areas of both North and South Louisiana. However, minority groups may have the tendency to accept cultural traits of the majority group. For example, cemetery decorations in some white and black cemeteries in and around South Louisiana are conducted in All Saints' Day like Catholic, although they do not practice formal religious ceremonies in their cemeteries.

It is also noted that urban cemeteries contrast with rural ones. Urban cemeteries are generally much larger, reflecting larger group units. Racially mixed cemeteries are more frequent in urban groups. Urban groups tend to express their identity to such larger societies as nation, while rural folks' identity to local group remains relatively strong.